

## 冬場の窓の結露対策

今年の冬は暖冬といわれていましたが、それでも冬になると気になるのが結露です。結露は、放っておくとカビやダニの発生によるアレルギーの原因となったり、木造住宅においては建物の腐食の原因にもなります。今回は、そんな結露の対策を改めてご案内致します。

### 結露防止対策

#### ①暖房器具の見直し

暖房器具には、大きく分けて開放型と非開放型の2種類があります。開放型と呼ばれる石油やガスのストーブ・ファンヒータは、燃焼の際に大量の水蒸気を発生させるため、室内が高湿度になり結露を促進します。結露を減らすためには、非開放型の暖房器具やオイルヒーター、エアコンなど電気式の暖房器具を使用するようにしましょう。



●開放型暖房器具は、結露しやすい！



●結露対策にはエアコン、オイルヒーターが◎

#### ②換気・空気循環の徹底

たまった湿気を追い出すために、換気扇を回したり窓を開けて換気をしましょう。特に料理中・入浴後は注意が必要です。また、暖房中に空気を循環させて湿気を分散させるよう、サーキュレーターやシーリングファンを回すのもとても有効です。

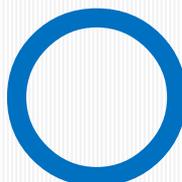
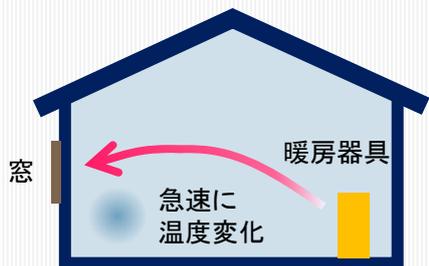


### ③暖房器具の配置の見直し

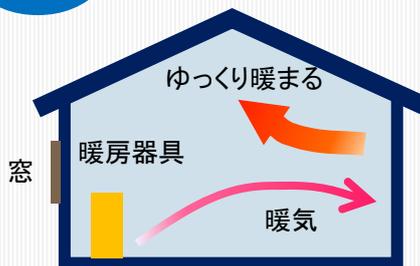
室内の暖かい空気が窓辺に近づくとガラス面の冷気で冷やされ重くなり、床面など下に流れていく「コールドドラフト」という現象が起こります。足元が寒くなるため、暖房をさらに強くしてしまい、外気と室内の温度差が窓辺で大きくなり、結露を助長してしまいます。実は、暖房器具は窓を背にして部屋内に向けて使う方が、寒さ対策としても効果的です。



●温風ヒーターなどを窓に向けて使うとコールドドラフト現象が発生し暖房効果が落ちる。また、窓辺で急速に温度変化が起きて結露を生じやすい



●暖房器具を窓側から部屋の内側に向かって使うと壁が温まり、室内もゆっくり暖められる



### 結露が起きてしまったら…

●まずは、雑巾等を使って拭き取りましょう。



ワイパーと雑巾を併用するのがおすすめ！

●窓に直接貼ることができる吸水テープもあります！



窓についた結露水を吸収し、大気中に蒸発させる優れたもの！

吸水テープは、ホームセンターでお買い求め頂けすぐに貼ることができます。  
また、天窗や高所窓への貼付けにお手伝いが必要な際は、  
いつでもアフターメンテナンス担当者にお申し付けください！